

母親の産後うつは 歯磨き習慣と関連する？

Tsuchiya et al. Influence of maternal postpartum depression on children's toothbrushing frequency. *Community Dent Oral Epidemiol.* 2022. doi:[10.1111/cdoe.12672](https://doi.org/10.1111/cdoe.12672)



【はじめに】

毎日の歯磨き習慣は子どもの虫歯発生の予防にとっても有効ですが、そのほとんどは親の管理に依存しています。産後うつは母親の子育てへの積極性が低下する因子となっており、子どもの健康と行動発達に影響を及ぼすため、子どもの歯磨き行動にも影響を及ぼすのではないかと考えられます。そこで本研究では、母親の産後うつと子どもの歯磨き習慣に関連があるかを調べました。

【調査項目】

84,533組の母親とその子どもを対象とし、以下の項目を調査しました。
母親：産後1か月と6か月にエジンバラ産後うつ病自己評価票（EPDS）※を用いて産後うつの有無を調べました。
子ども：2歳時点での子どもの歯磨き頻度を調べました。歯磨き頻度は1日1回以上、1日1回、1日1回未満に分類しました。

※エジンバラ産後うつ病自己評価票（EPDS）：産後うつかどうかを市レベル自己記入式の評価票です。日本では30点満点中9点以上であれば産後うつの疑いが高いといえます。

【結果】

| 産後うつの有無 | 子どもの歯磨き頻度低下リスク |
|-----------|----------------|
| 両時点でなし | 1 |
| 産後1か月のみあり | 1.06 |
| 産後6か月のみあり | 1.06 |
| 両時点であり | 1.08 |

数字が1よりも大きいほど、リスクが高いことを意味します

母親の産後うつと子どもの歯磨き頻度の低下は関連していることが分かりました。また、産後1・6か月の両時点で母親が産後うつであることと子どもの歯磨き頻度の低さには、より強い関連が見られました。この結果は、産後うつの持続に依存して子どもの歯磨き頻度が低下することを示しています。



【この調査でわかったこと】

母親の産後うつは、2歳時点での子どもの歯磨き頻度を低下させるリスクになっていることが分かりました。母親の産後うつの有無を調べることで子どもの歯磨き頻度の低下を予測し、幼児期の虫歯発生を予防する支援ができる可能性があります。